「自分らしさ」を

千代田中学校　三年　横内　美咲

「私の髪が短いからだよ。」彼女のその言葉に何を返せばよいかわかりませんでした。

部活動で学校の外を友達とランニングをしていたとき、すれちがった下校中の小学生が私たちをじっと見ていることに気が付きました。不思議に思っていた私に彼女は、「私の髪が短いからだよ。だからあの子、あんなに見てきたんだよ。」と言いました。彼女は事情があって一度、髪が抜けてしまったのだ、と思い出しました。それにしても、いくら状況を知らないとはいえ、そんなにまじまじと見なくてもいいじゃないか!!　今の彼女の言い方からして、これまでにも同じようなことがあったのだろう。私はいろいろな感情が混ざり複雑な気持ちになりました。

女の子は髪が長い、男の子は髪が短い。そのような決まりはありません。ですが、世の中に自然と構築された「常識」がそういっているのでしょう。髪の長さに限らず、女性と男性の間で、別の「あたり前」があります。

しかし、私は彼女に会い、それは違うと思いました。彼女は、自らの意志でこうなってしまった訳ではありません。それでも、いつでも明るく、誰にでも優しく、そして何事にも人一倍一生懸命取り組んでいるのです。私が彼女の立場だったら、周りからの目を気にして、自分に自信をもてなくなってしまうと思います。彼女は常に「自分らしさ」を忘れていませんでした。

「自分らしさ」の大切さに気付いた私は生きる世界の見え方が変わりました。小学生の頃ショートヘアで「男の子みたいな長さ」にならないようにしてましたが、今は男性アーティストの髪型を見て、次はこうしよう、と自然に思えました。こちらの方が楽しいです。

世の中も少しずつですが、男性/女性だからこう、という決まりは減ってきたと思います。私たちの学校も、女子はスカートだけでなくスラックスが用意されたり、体操着・ジャージが男女で色違いだったものが全校統一になったりしました。

社会的にも「〇〇だから」といった理由で区別されることが問題視されるようになりました。先生から「白すぎるオスカー問題」について教えていただきました。オスカーアカデミー賞とも知られる、アメリカの国際的な映画祭ですが、二〇一六年のノミネートでは候補二十名が前年に続き白人で占められていたことで激しい人種論争が起きました。この問題以後は、黒人の俳優が受賞したり、二〇二四年からは出演者やスタッフの中に人種や民族的マイノリティー

の方を起用しなければノミネートされない部門ができたりするなど、改善が進んでいます。

社会に「自分らしさ」を見せる場面は増えてきました。しかし、これは、私の学校のスラックスで例えれば、着用が可能になったというだけで、決して私が見た彼女を見つめる小学生のように、周りの人から不思議な目で見られないという保障はどこにもないのです。私のクラスでも、「スラックスの方がいいけど、一人だけかもしれないし、女子がズボンは変な感じがするから嫌だ」ということを多く耳にしました。

男性/女性らしい・白人/黒人だからなどの壁が減っています。私たちはその先、「自分らしさ」を互いに認め合うことが必要です。性別・人種等に関わらず、スカート/ズボンを履いている人がいる、髪が短い/長い人がいる。これがあたり前でなくてはなりません。

自分の本当の気持ちに逆わず「自分らしさ」を大切に生きていきたいです。そして、その「自分らしさ」を認め合うことでさらに一人一人が輝き出すのだと思います。私は、彼女のように周りに左右されずに生きていきます。みなさんには、私や彼女の「自分らしさ」も、そして、地球に住む全ての人の「自分らしさ」も認めていってほしいと思います。